

## 長浜市森林ディレクション審議会（平成29年度第2回）議事録

### 【出席者】委員7名（敬称略）

会長 滋賀県立大学環境科学部環境政策課・計画学科：高橋卓也

副会長 内保製材株式会社：川瀬文明

長浜市伊香森林組合：高橋市衛

滋賀県猟友会北部有害鳥獣捕獲組合：藤田和司

伊香具山友会：横関隆幸

公募市民：藤井克博

湖北森林整備事務所：原滋治

市（事務局）5名

森林整備課：大澤課長、今莊課長代理、松本主幹

農林課：川崎課長（オブザーバー）

欠席：妙理の里バイオマス推進協議会：片山由文

長浜市森づくり会長：横田光代

### 【概要】

#### （1）事業評価について

資料1、2、参考資料を基に松本主幹から説明。質疑応答。

#### （2）平成30年度事業について

資料3を基に松本主幹から説明。質疑応答。

#### （3）審議会活動の総括（3年間）について

資料4を基に松本主幹から説明。意見聴取、質疑応答。

#### （4）次期審議会委員人選作業について

今後のスケジュールについて

松本主幹から説明。

### 【議事録】

#### ●開会

松居部長：あいさつ

#### ●事業評価について質疑応答

・薪の加工をNPO団体やしょうがい者施設の方々にやっていただいているかどうかというところで、東近江市や甲賀市では薪の加工をしょうがい者の方にいただいていることもあり、柔軟な対応も必要ではないかと思う。※東近江市：薪遊庭、甲賀市：木の駅プロジェクト

⇒東近江市等、こういった形で事業展開されているのか確認させていただいておく。

●資料2を基に審議会委員の間で意見交換

(1) 森林の大切さの啓発と魅力の発信について

・所有者のマインドが後ろ向きになっているため、何か前向きになるような明るいことは考えられないか。

⇒難しい問題であるため、森林整備課でも検討していただく必要がある。

・ドイツフォレスター招へいについて、長浜市とはレベルが違いハイレベルでやっているため、必要性を感じないと思う。

⇒ハイレベルなモデルを見て勉強になることがあるため、招へいも必要と考えている。

(2) 市民が参画する森林づくりについて

・項目11及び13について、呼びかけ回数が記載されているが、具体的なイメージが掴めないため、評価方法を見直してはどうか。

⇒ホームページで閲覧した人の数をカウントするなど検討していく。

・世代交代に向けた取り組みが必要ではないか。

⇒人間なら損得勘定があると思うので、地域活動に参加したら何らかの見返りがあるようなことを検討していくのも一つかもしれない。

(3) 次代の森林を支える人づくりについて

・自伐型林業の従事者及び木材生産が激減しているのはなぜか。

⇒伊香森林組合の薪市場事業では地域から出た薪を買取っており、初年度事業時には、地域で活動して出た薪の総数をカウントしていたと思われる。その後も買取り事業は展開していたが、買取り価格が高かったこともあり、地域から大量に薪が持ち込まれた。そのため、買取りを調整したことから、数字が減ったと思われる。薪の買取り金額を確保することが課題となっている。

・自伐型林業従事者数の評価方法について、薪を薪市場に持ち込む方をカウントしていたり、地域おこし協力隊が薪市場の運営に関わっていたということでカウントしていたりする等、項目ごとに自伐型林業従事者数を上げていて統一感がないように思われる。せつかくだから自伐型林業を定義して幅広くカウントしていけばどうか。たとえば、評価シート：24の参加者数をカウントしても良いと思うし、25の3人に揃えてカウントしても良いと思う。次年度以降で反映していただければと思う。

⇒当初、長浜スタイルの自伐型林業を推進する中で広葉樹活用や特用林産物を含めて、収入を得ている方々を自伐型林家という考え方があり、評価シート：24との整合性が取れていなかった。修正させていただく。地域おこし協力隊については、実際に活動しているため、カウントしていく方向で検討していく。

(4) 森林資源の利用拡大について

・見える場所での利用を増やすシステムティックな方法はどうか。

⇒公共建築物では、認定子ども園や図書館等、市民の目につくところに使っていただき、需要を喚起したいと考えている。

#### (5) 効率的な木材生産

・以前、審議会の中で地域ごとに林業関係の委員を設けてはどうかと話が出ていたが、それから何も動きがないところを見ると難しい状況にあるのか。

⇒合併前には林業実行組合長等がいたが、その後、引継ぎが出来ていなかったこともあり、集落ごとに集約化推進員を設置していただけないか説明し、お願いしているところである。その中で実際に設置していただいているところもあれば、集落の役員にいただいているところもあるが、なり手がいないというのが現状である。

・なり手に賃金を支払うのはどうか。

⇒一つの提案としてきかせていただく。

#### (6) 多様な森林づくり

・市有林の活用方法として、薪の供給源モデル地域にしてはどうかというところで、ボトルネックとなっているのか何か。

⇒市有林は市内全体をみると大小いくつもあるが、集福寺については、環境林もあり、活用していかなければならないと考えている。今後は自伐型林業の候補地や広葉樹を活用した林業6次産業化を検討している。

しかし、全市有林の状況が把握できていないため、具体的な策が出しにくく、広葉樹の活用をどれぐらい上げられるかが課題となっている。

#### ●平成30年度事業について質疑応答

⇒林業6次産業化、現在の取組み状況、今後の予定について説明。

・第2の矢 施業集約化の促進の中で地図の作成と書いているが、どういう形になるのか。

⇒森林計画図が少し詳しくなったものになると考えているが、まだどういった形になるのかははっきりしたことはわからない。

#### ●審議会活動の総括（3年間）について各審議会委員から意見を聴取

・今後は実現可能な計画を立てて進めていくことが重要である。

・林業に興味のある高校生もいるかもしれないため、高校生を対象にした木育を考えるのも良いと思う。

・会議終了後、交流会を持つのも良いと思う。

・森林を活かして長浜市を豊かにしてもらいたい。

・ディレクション審議会は市町村森林整備計画をベースに作られていると思うが、他市ではやっていないため、すばらしいと思う。

・昔、木之本町杉本の山奥に学友林があり、高校生の頃は下刈り等をしていた。そのため、各学校が学友林を持ち、高校生が木を育て親しんでもらえるようにしてはどうか。

・各事業の目標を立て、進捗管理を行っていることは良い事だと思う。今後も継続してやっていただければ良いと思う。

#### ●次期審議会委員人選作業について

・11月から次期審議会委員の人選に入る予定をしているため、現審議会委員の皆様には

次期審議会委員になっていただける方を推薦していただきたい。来月、現審議会委員の皆様個別に連絡してお窺いさせていただくので、ご協力いただきたい。審議会委員公募については、広報ながはま12月号に掲載を予定しており、来年2月には次期審議会委員が決まる予定である。

●今後のスケジュールについて

・来年度は審議会を3回予定している。(4月、7月、9月)

・第1回：新たな審議会委員の方々の顔合わせとディレクション審議会の概要等について説明。

・第2回以降は例年通りの実績報告、評価等の内容で審議会を進めていく予定。

●閉会

大澤課長あいさつ